

SCOUTING

2018
No.728
11



なろう。一人前に。
キャンペーン実施中

特集

RCJ Re:Quest

2018年 夏の海外派遣



SCOUTS
Creating a Better World



そなえよつねに
ボーイスカウト

CONTENTS

02 RCJ Re: Quest

06 2018年夏の海外派遣

08 日本連盟創立100周年に向けて
ボーイスカウト再興への道 シリーズ(5) 番外編
大和の森 高萩スカウトフィールドの
活用について

11 野外活動のための安心・安全講座
「セーフ・フロム・ハーム」
思いやりの心を育む教育の取り組み

12 維持会員

14 2018年度スカウトの日

14 スカウティングの知っててちょっと良い話(50)

15 平成30年7月豪雨 支援状況

16 ローカルホットライン

17 エッセイ

18 スカウティングとウッドクラフト⑦
中村知連戦「ウッドクラフトとは」で振り返る、
ボーイスカウト日本連盟再建後の
ウッドクラフト教育

20 ボーイスカウトPRムービーコンテスト
入選作品発表!!

20 新スカウト会館

21 12月は「寄付月間」!!

22 日本連盟情報

22 第46回 全国ボーイスカウト写真コンテスト
作品募集

23 新春名刺交換のご案内

24 スカウトショップ

RCJ Re: Quest

全国ローバースカウト会議



—昨年、11年ぶりに開催したローバースカウト年代の野営大会「RCJクエスト2016 in 高萩」。あれから2年、再び全国のローバースカウト年代が高萩スカウトフィールドに集いました。

今回の大会名称「Re: Quest」には、2年前のRCJクエストの再来という意味の「Re:」、近いうちにムートを開催したい! という「Request (要求)」という意味合いが込められ、前大会よりもパワーアップしたプログラムを展開し、同年代の仲間と交流したり、地元の小学生に野外活動を体験していただく企画の運営をしました。その模様をご紹介します。



概要

日 時 8月23日(木)～26日(日) 3泊4日
場 所 日本連盟・大和の森 高萩スカウトフィールド
参加人数 24県連盟105人
テ ー マ Good Resolution



Re:Quest



8月23日(木) 参加者入場、開会式、設営、オープニングナイト
 8月24日(金) 半日プログラム、ローバーカフェ
 8月25日(土) 一日プログラム、ローバーナイト
 8月26日(日) 撤営、閉会式、参加者退場



半日プログラム

今大会では、日ごとにプログラムの展開を変え、参加者は期間をとおして自身の選択によりさまざまなプログラムに参加しました。

大会2日目には、午前と午後で異なるプログラムに参加できるよう半日プログラムを展開。「プチ・ツール・ド・高萩」「ROVERING × SDGs フォーラム」^{つちだけ}「土岳ハイキング」「ウッドクラフト」の4プログラムのほか、参加者の持ち込みプログラム「SCOUTUBE in RCJ Re:Quest」(午前のみ)と「高萩音楽会」(午後のみ)の2つも実施され、さまざまなジャンルの中から自身の興味関心によるプログラムを選択することで、より多くの体験をする機会を得ました。

「SDGs フォーラム」では、昨夏アゼルバイジャンで開催された第13回世界スカウトユースフォーラムでも取り上げられた「SDGs (持続可能な開発目標)」をテーマに、私たちのスカウト活動に関連すること、私たちが積極的に取り組んでいけることを、短い時間ですがディスカッションしました。

SDGs を遠い世界のこととせず、ローバースカウトの活動をベースとして話し合いました。今回のプログラムを機に、気軽でありながら真面目に話し合うことのできる機会が今後も全国に広まっていくことを期待しています。

一日プログラム

大会3日目は、一日プログラムを実施。この日のプログラムは「茨城 DAY」「サイクリング」「市街散策」^{たつわれきん}「堅破山征服」の4つ。半日プログラム同様、事前に参加プログラムを選択し、高度な野外活動への挑戦や地域社会を知る活動、地域貢献といった、高秋しかできない4種4様のプログラムに参加しました。

特に地域貢献として実施した「茨城 DAY」では、茨城県内の小学生と保護者を対象に自然体験プログラムを提供。場内ハイキングや火起こし・ロープワーク体験、キャンプファイア体験のそれぞれのコーナーで指導したり一緒に場内を巡ったりすることで、ボーイスカウト活動のPRにも貢献しました。





実行委員長より

2年ぶりに開催することができた、ローバースカウトのローバースカウトによるローバースカウトのための野営大会「RCJ Re:Quest」。

きっかけは「RCJ フォーラム2015」でした。フォーラムの討議で「ローバースカウト年代の野営大会を開催したい」という声が上がリ、RCJ 運営委員会、RCJ クエスト実行委員会が中心となり、2016年に「RCJ クエスト」を開催しました。実に11年ぶりとなるローバースカウトの野営大会でしたが、終了直後から「今後もやりたい」「次はいつ?」「もっと長い期間で」という期待の声が各地から集まり、今回の大会を開催することとなりました。

RCJ 結成以後、このようなスカウトたちの意見が集約されるだけではなく、実際に大会を開催できるようになったのは、RCJ 構成員の強い想いと、それに応えようと尽くす歴代 RCJ 運営委員の力によるものだと思います。

今回の大会は、実行委員にとっても参加者にとっても、ゴールではありません。将来的な「ムート」の復活、そして個々のスカウトの今後のローバーリングの発展を目指すための大会です。これを実現するのに必要不可欠なのが「Good Resolution」です。

ローバースカウト年代の皆さん、今後もさまざまな場面で「Good Resolution」が求められると思いますが、これからのローバースカウトがより充実した活動を行えるように「Good Resolution」の考えを続けていきましょう。その活動の中で、今後も継続してローバースカウト年代の野営大会が開催されることを願っています。

最後に、今大会を開催するためにご支援いただきました多くの皆さまに、深くお礼申し上げます。今後も、全国のローバースカウト年代のために、ご支援、ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



RCJ Re:Quest 実行委員長
千葉県連盟船橋第5団

出口 裕理

ナイトプログラム

大会期間中、毎日異なる目的でナイトプログラムを実施しました。初日の夜は「ウェルカムナイト」。ローバー年代の野営大会を開催できることを感謝し、参加者全員でお祝いの夜を過ごすとともに、翌日以降のプログラムのグループに分かれてアイスブレイクを行いました。2日目の「ローバーカフェ」は、小グループに分かれてスウェディッシュトーチの温かな火を囲み、落ち着いた雰囲気の中で語り合い。3日目は「ローバーナイト」。前日のローバーカフェとは違って変わり、歌って、踊って、祝ってと、大会最後の夜に大いに盛り上がり、別れを惜しみつつ再会を誓う夜となりました。

今回、初めて全国規模のローバースカウトのプログラムに参加し、この運動もまだまだ捨てたものではないと改めて感じました。

実行委員会を中心にした準備、運営、参加者との協働、ローバースカウトの情熱を肌で感じることができた大会でした。特に実行委員は、現地の下見や数回にわたる計画会議を行い、集まらない間もインターネットをうまく活用しながら打ち合わせを重ね、自分たちで大会を作りあげ、開催日を迎えました。そうしてプログラムに参加したローバースカウトの笑顔が忘れられません。

全国の指導者の皆さん、この大会を身近なローバースカウトにご紹介いただくとともに、ぜひ一度、彼らのプログラムを見学してみませんか。

日本連盟プログラム委員
竹内 和夫



2018年 夏の海外派遣

ボーイスカウト活動の中で「国際交流」は大きな魅力のひとつです。世界には、169の国と地域に約4千万人のスカウト仲間がいて、今夏の第17回日本スカウトジャンボリーに海外12の国と地域からスカウトが参加したように、さまざまな交流の機会があります。今号では、この夏に行った海外派遣の様子をお届けします。



スカウト・オーストラリア 短期留学派遣

7月22日(日)～8月26日(日)



オーストラリア・
西オーストラリア州パース市郊外

派遣員：山口ゆう(兵庫・神戸第43団VS)

学校では英語のみの授業に戸惑うこともありましたが、クラスメートたちの助けもあり、楽しい日々を過ごせました。スカウト活動では、折り紙を紹介したり、おにぎりなどの簡単な日本食を作ったりと日本文化の紹介もできました。ホストファミリーとも有意義な時間を過ごせ多くの経験を積むことができました！



オーストラリア短期留学派遣は今年で実施25年目を迎えました。オーストラリアのスカウトの家庭でホームステイをして現地の学校へ通学し、スカウト活動への参加などを通じて語学力の向上をはかったほか、現地の文化を学び、言葉の壁を越えた交流を行いました。

第5回 国際パトロールジャンボリー派遣

7月31日(火)～8月7日(火)



韓国・江原道 ソラクサン 第25回世界スカウトジャンボリー会場

派遣員：星野輝(愛知・日進第1団CS隊副長)
川瀬綾音(大阪・大阪第85団団委員長)

派遣員2人はISTとして大会に参加。期間中、大会本部のプログラム部に配属され、プログラムブースの設置や運営に関わりました。ジャンボリー自体は、最終日に予定されていた閉会式が台風の影響による荒天のため中止となりましたが、期間を通じて、外国連盟から参加した仲

間と交流を深めたほか、1人は期間中に行われた「フレンドシップアワード」(事前に選定された各国指導者を会場内で捜して、出されたミッションをクリアするともらえるアワード)の指導者として選ばれ、参加スカウトとより多くのコミュニケーションをとることができました。



2018 CJKベンチャープロジェクト派遣

8月1日(水)～8日(水)



台湾・台南、高雄

派遣員：平子巧派遣隊長(神奈川・藤沢第21団CS隊副長)
池田潤(神奈川・鎌倉第2団VS)
水谷萌(東京・目黒第9団VS)
矢野百花(兵庫・西宮第1団VS)

「ベンチャースカウトによる協働事業」として始まった、CJKベンチャープロジェクトは今年で6回目の開催となりました。今回は台湾で開催。3か国が混成グループに分かれ、台南地域の地域住民センターでの奉仕や地元高等学校の生徒たちとの交流、近隣の清掃活動を実施したほか、高雄市に移動して文化遺産などを訪れ、台湾南部の文化について理解を深めました。参加スカウトは、さまざまな活動の中でお互いの国の文化についても理解したほか、プロジェクトを通じて、協働することがいかに大切かを学びました。

自分の英語が伝わるか、交流が深まるか、不安や緊張がありましたが、一緒に活動するうちに少しずつコミュニケーションをとれるようになりました。帰国するころには、みんなと別れるのがとても悲しくなるほど、楽しくプロジェクトに参加することができました。



※ CJK: China(台湾)、Japan(日本)、Korea(韓国)

第14回 台湾ローバームート派遣

8月17日(金)～23日(木)



台湾・台南 烏山頭

派遣員：安部京(神奈川・鎌倉第2回RS)
川原田昌徳(東京・千代田第7回RS)
武藤恵祐(和歌山・橋本第2回RS)

日ごろの活動を通じて体得した知識、技能、精神を一層高めるとともに、台湾をはじめとする13の国と地域から参加した同年代スカウトとの交歓により、国際協力の意識を高め、理解と友情を深めました。



台湾ローバームートに参加し、台湾のスカウティングを学びました。台湾では、大学生になってからスカウトになる人も珍しくはありません。今回学んだことを、日本のスカウティングに取り入れていけたらよいと思いました。台湾ローバームート終了後は、日本に遊びに来た台湾の友だちに東京の街を案内するなど、その後も交流を深めています。

近年は、インターネットやSNSの普及などにより、以前に比べて海外旅行や海外との交流がより身近なものとなっています。また、国内に外資系の企業なども増え、いまや「グローバル」という言葉は当たり前になりつつあります。

その中でも、ボーイスカウトによる国際交流は、他に代わるものがない貴重な機会といえるでしょう。言葉に自信がなくても、「ボーイスカウト」という共通項があるだけで、少し積極的になれるか

もしれません。実際に会ってしまえば、スカウトたちは工夫し、柔軟に意思疎通を図り、友情を深めます。そのような機会が、ボーイスカウトにはたくさんあります。海外派遣の対象ではない年代のスカウトには、日本に招いたり受け入れたりするという方法で国際交流することもできます。ぜひ、そのような機会を活用して、ボーイスカウト活動の特性のひとつでもある「国際性」を積極的に展開していきましょう。

第24回世界スカウトジャンボリー

4年に1度開催される世界スカウトジャンボリー。いよいよ来年の夏、第24回世界スカウトジャンボリー(24WSJ)が開催されます。今回はカナダ、メキシコ、アメリカの3か国連盟が共同でホストを務め、アメリカのウェストバージニア州にあるアメリカ連盟サミットベクトルリザーブを会場に、世界から約35,000人が集まる予定です。大会期間は2019年7月22日から8月2日までの11泊12日。日本派遣団の派遣期間は参加隊で約16日の長期にわたります。

2015年夏に山口県で開催された第23回世界スカウトジャンボリーでは、155の国と地域から約34,000人が集まり、ホームステイの受け入れなども含め、ホスト国として全国各地で世界のスカウトたちとすばらしい体験ができたことは、皆さんの記憶に新しいと思います。今回、前ホスト国である日本は、当初予定していた1,000人を超える約1,200人の派遣団を編成して24WSJに参加します。

今大会のテーマは「新世界の扉を開こう」「UNLOCK A NEW WORLD」。サミットベクトルリザーブは東京ドーム約1,212個分に相当する広大な野営場で、その自然を活用したプログラムを数多く常設しており、ジャンボリーでは全長1kmにもなるジップラインをはじめ、



空中散歩を楽しめる「ロープスイング」や、ラフティングやカヌー、スキューバダイビングなどの「ウォータースポーツ」といったハイアドベンチャープログラムに挑戦します。また、ジャンボリーならではのプログラムとして、地球規模で起きているさまざまな問題について考え、

行動を起こすきっかけとなる「GDV(Global Development Village)」などもあり、バラエティに富んだプログラムを体験しながら、海外のスカウトと交流を深めます。

大会の様子は、大会開催後に本誌にてお伝えする予定ですので楽しみにお待ちください。



日本連盟創立100周年に向けて
ボーイスカウト再興への道

シリーズ(5) 番外編

大和の森 高萩スカウトフィールドの活用について

2012(平成24)年、大和ハウス工業株式会社より寄贈を受け、日本連盟の新たな野営場として誕生した「大和の森 高萩スカウトフィールド」。今号では、この野営場の成り立ちと活用計画、将来像などについてご紹介します。

■ 取得の経緯

山中野営場は、過去数十年にわたる多額の賃借料に加え、管理棟や宿泊棟の老朽化と耐震の問題を抱えており、閉場を余儀なくされている状況でした。賃借料については、その解決策として借地の取得に関する交渉を長年してきましたが、恩賜林であり国有地であることなどから、叶いませんでした。そしてなにより、隣接する住宅や別荘が増えて、ボーイスカウトならではの隊キャンプや営火などにふさわしい、静かで、かつ思いきり声を出して歌うことのできる環境でなくなってしまったことが、山中野営場の閉場を決意する大きな要因でした。

この歴史ある山中野営場の代替地となり得る場所、ジャンボリー常設会場となり得る場所、そしてなにより、スカウト運動発展のために青少年の本格的な野外活動に重点を置いたフィールドとなる新たな野営場の取得を模索し、各地の自治体等に候補地の打診をしていたところ、2011年秋に当時の橋本茨城県知事から「ボーイスカウトで活用できるかもしれない土地がある」というご提案がありました。それが、茨城県北部に位置する高萩市の土地です。その活用について、所有していた大和ハウス工業から県に相談があり、知事からボーイスカウトに紹介されたのです。その後、大和ハウスの樋口会長と日本連盟奥島理事長が直接交流し、「日本の将来を担うたくましい青少年の育成に役立ててほしい」と寄贈していただくことになりました。

■ 整備計画

寄贈していただいた271ヘクタール(約82万坪)の土地は、標高差約200mの山あり谷ありの山林で、ジャンボリー会場とするには難しい地勢ながら、スカウトのキャンプ地としてのニーズには非常に適した自然豊かな場所でした。日本連盟では、ありのままの自然をなるべく生かした冒険的活動の場として、この高萩の地を開拓していくことにしました。

茨城県および高萩市からは「地域活性の一端を担う場」として、また、大和ハウスからは「日本の将来を担う青少年の育成に役立つ場」としてのご期待を受け、それぞれ整備計画にご支援をいただくことになり、主要な野営区画の樹木伐採などの開拓、上下水道、施設や建造物、そしてアプローチ道路などについての整備計画を進めました。

■ 整備状況

2012年春には大和ハウス工業と正式な譲渡契約を交わし、同年夏より、100人程度のキャンプが可能なベースキャンプ地の開拓作業に着手。井戸を掘削し、仮設トイレを設置しました。

2014年以降、さらなる野営地開拓、上下水道や駐車場など



の整備に続いてトイレ・シャワー棟、屋外集会場といった設備を順次整えました。2016年にはおよそ800人収容規模までキャンプサイトを開拓。2017年夏には高萩スカウトフィールドとしてのグランドオープンを迎え、野外ステージや管理棟も完成。野営場全体からすればごく一部ではありますが、当初計画した主要エリアとその近隣にある滝エリアの整備をほぼ終えるに至りました。

現在の高萩スカウトフィールド主要設備

- 管理棟／宿泊室40人 食堂・厨房、会議室、研修室、浴室等
- 野外講堂／200㎡
- 水汲み場／2箇所
- キャンプサイト(テント泊約800人)
- 営火場(50人程度)
- 広場、アスレチック設備
- 野外ステージ(2,000人)
- 水洗トイレ棟・温水シャワー棟／各2棟
- 駐車場(40台)

整備に要した費用(2013～2017年度)

左記一連の整備に要した費用はおよそ6億7千万円。その半分強(57%)にあたる部分は大和ハウス工業、茨城県、高萩市から寄付や補助金としてご支援いただいたものです。

土地(82万坪)	無償
建設費用	
(1) フィールド整備	358,516,000
土地造成、道路、駐車場	121,733,000
屋根付集会場、シャワー・トイレ棟等	236,783,000
(2) 管理棟(新平荘)	312,824,000
建物建設	286,470,000
備品、消耗品、建物取得税等	11,666,000
取水設備(30年度)	14,688,000
合計(1)+(2)	671,340,000
財源	
(1) 寄付金・補助金	381,900,000
寄付金(大和ハウス工業)	248,400,000
補助金(茨城県 高萩市)	133,500,000
(2) 自己資金	289,440,000
建物補修等積立資産取崩(山中野営場)	187,967,000
一般運転資金	101,473,000
合計(1)+(2)	671,340,000



③新平荘(管理棟)

約40人が宿泊できる宿泊室、食堂・厨房、会議室、研修室、浴室、管理人室などがある建物です。



①アリーナ(野外ステージ)

1,500人規模のイベントを開催できる場所です。常設の照明や音響設備はありません。



④スカウトホール(野外講堂)

100人程度が入れる屋根付きの講堂です。照明もあるので夜間の利用も可能です。



②キャンプサイト

800人程度がテント泊できる場所です。地図で黄色のエリアをキャンプサイトとして利用できます。

⑤広場

日本ジャンボレット高萩2017ではプログラムブースが立ち並んだ場所です。約20個のプログラムブースを展開できるスペースがあり、営火場も近いです。

■ 主な活用実績

野営場の整備を進めながら、段階的にさまざまな事業をこのフィールドで展開しました。

2013年秋

茨城県連盟グリーンバーの集い

初めてスカウトが野営場を利用。約100人



2015年秋～

しぜんとあそぼデイキャンプ 2015、16、17

地球環境基金の助成を受け、地元高萩市内の小学生に向けた野外授業として自然体験活動を実施。それぞれ約200～450人(2018年も継続実施)



2016年夏

RCJクエスト 2016 in 高萩

全国から集まったローバースカウトによるワークキャンプ。青年たちが交流しながら自分たちの手で野営場の開拓と整備を進めた。30県連盟から106人



2017年夏

日本ジャンボレット高萩2017

ビーバーからローバーまで全部門のスカウトがそれぞれの活動で参加できる初の全国野営イベント。大和の森 高萩スカウトフィールドのグランドオープニング事業として開催。1,722人



2017年秋

出会いと体験の森ヘリリーダーズキャンプ

日本キャンプ協会、YMCA、YWCA、ガールスカウト、ボーイスカウトの5団体に所属する18歳以上のキャンプリーダー研修事業。29人

2017年冬

ニコニコキャンプ冬の部

東日本大震災で被災した福島子どもたちを招いての交流キャンプ。毎年夏と冬に那須野営場で開催してきたものを高萩で開催。38人

2018年夏

RCJ Re: Quest

全国のローバースカウトが冒険活動を共にし、また期間中に茨城県内の小学生を招いて自然体験活動を提供。24県連盟105人

高萩スカウトフィールドまつり(茨城 DAY)

上記の県内小学生を招いた事業。小学生および保護者62人

※上記2事業は本誌2～5頁に関連記事

茨城県委託 親子キャンプ

県内の家族を招いた事業。14家庭46人

■ 活用計画

A スカウト王国計画

主要エリアのインフラ整備にこれまである程度の資金を投入してきましたが、今後はスカウトのさまざまな自主的なプロジェクトの展開や開発を行います。たとえば全国のスカウトの希望する隊に100坪から1ヘクタールほどの区画を割り当て、自分たちの知恵と工夫で木の上の家や広場を作り、自分たちの王国を作ること強力に推進します。

1. さくらの森プロジェクト

関係諸機関から苗木の寄贈などをいただきながら、地域社会の皆さんとの協働による植樹事業を展開。高萩スカウトフィールドを桜の名所に育て、愛着をもっていただきます。

2. 子どもの夢の森・里山化整備事業

カシヤシイの実をつける広葉樹におおわれた、リスや小鳥の楽園ともなる雑木林、「子どもの夢の森」を育てていきます。

3. BS教育にふさわしいキャンプサイト化

低木の植林も進め、親密な活動ができる班サイト、それらが寄り合う隊サイトとして使いやすいキャンプサイトを作っていきます。

B スカウトの訓練基地化計画

1. サマーキャンププロジェクト

少人数の隊でも夏休みにここに来ればさまざまな冒険プログラムが体験できる、同行指導者は指導者研修もあわせて受講できる、というような夏季事業、それ以外の時期にも提供できるプログラムを常設していきます。

2. 富士特別野営(2019～)プロジェクト

スカウトの最高峰である富士スカウトと、富士スカウトを目指し挑戦するベンチャースカウトのための高度なアドベンチャー活動。これまで山中野営場で開催してきましたが、今後は高萩スカウトフィールドを拠点に、さらに冒険的な活動を展開していきます。

3. 日本連盟主催各種指導者訓練

班サイト、隊サイトに適した自然豊かな環境を活用して、各種の指導者訓練事業のメイン会場としていきます。

4. 地域社会との協働事業

地元地域の自然保護活動、研修事業、子どもたちの環境教育などに大いに活用してもらえるよう門戸を開き、野外活動や自然の楽しみ方などを支援。ともに野営場を活用していきます。

■ 将来への展望

プログラム委員会のもとに高萩スカウトフィールド活用タスクチームを設け、さまざまな活用法を検討していくとともに、フィールドの維持、管理、開拓を目的とした管理特別委員会を設置し、施設や経費の管理を進めるほか、日本連盟創立100周年(2022年)に向けた記念基金の創設などについても検討していきます。

また、地元の子どもたち、地域社会の皆さんにも加わっていただける植樹事業や自然体験教室などにも積極的に取り組んでいき、ボーイスカウトのためだけではない、開けたフィールドに育てていきましょう。

そしてなにより、この広大なフィールドの自然を存分に生かして、スカウトたちのさまざまな冒険的活動が活発に展開できる野営場として、またさまざまな指導者研修の場として、この高萩スカウトフィールドを大いに活用してまいります。



■ 野外活動のための安心・安全講座

「セーフ・フロム・ハーム」 思いやりの心を育む教育の取り組み

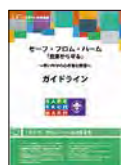


「セーフ・フロム・ハーム」思いやりの心を育む教育の取り組みも3年目となりました。指導者の皆さんは、年度ごとに登録前研修を受講するだけでなく、セミナーなどに参加することでより意識的に取り組まれていることと思います。

安心かつ安全であるということは、活動において重要なことです。ここで改めて確認していただくために、「セーフ・フロム・ハーム」の取り組みの基本を簡単にまとめました。



セーフ・フロム・ハーム
ガイドブック



セーフ・フロム・ハーム
「危害から守る」
～思いやりの心を育む教育～
ガイドライン



セーフ・フロム・ハーム
～思いやりの心を育む教育～
より良い理解のために



セーフ・フロム・ハーム
登録前研修
2018テキスト版

スカウトにとっては、自分自身と周りの人々を危害や危険から守ることを学ぶことがセーフ・フロム・ハームです。また、セーフ・フロム・ハームに取り組むことにより、他の人々への「思いやりの心」を育成し、人格や品性を高めます。

ビーバースカウトやカブスカウトは、活動の中でやさしく理解できるセーフ・フロム・ハームに関するお話やゲームなどを作って活用します。ボーイスカウト以上では、班長会議等で議論すべき項目として取り入れ、スカウト自身が考える機会を設けたり、フォーラム等を実施したりします。各行事（地区や県連盟等）の中で、セーフ・フロム・ハームについて学習したり考える時間等を設けます。

海外派遣等ではセーフ・フロム・ハームを事前に学ぶ機会を設けます。

取り組み例 方 鞆(ファン・イー・チュン)作/絵本『しんせつなともだち』要約

冬の森の中のお話です。

野山に雪がたくさん降り積もったある日、食べ物が無くなった子ウサギは食べ物を探しに出かけ、カブを2つ見つけます。そして、1つだけ食べ、もう1つは友だちのロバもおなかをすかしているだろうと思い、雪の中をロバのところへ届けます。ところが、ロバは留守だったので置いて帰りました。ロバはサツマイモを見つけていたのでそれを食べ、もらったカブを子ヤギのところへ持っていきます。すると、子ヤギはハクサイをみついていたのでカブを子ジカに届け、子ジカは青菜を見つけていたので、カブを子ウサギに届けます。カブはまた子ウサギのところへ戻ってきたのです。

ビーバースカウトは、紙芝居でお話を楽しみながら動物たちの優しさを感じます。カブスカウトには、「皆さん、このお話を聞いてどんな感想をもちましたか？」と投げかけ、友だちを思いやる優しさが回りまわって自分のところに戻ってきたことで、相手のことを思う小さな優しさがやがて大きな輪になり、自分のところに返ってくることを知ります。ボーイスカウトでは、班内でセーフ・フロム・ハームについてのディスカッションの導入として活用します。

活動の中で、指導者からスカウトに「○○はしてはいけません、相手の嫌がることをしてはいけません」と言うことがあります。自分が見て

嬉しいことをしよう」「相手が喜ぶことをしよう」などと、否定ではなく肯定の形で言うことよいでしょう。そして、指導者自身が実践する姿をスカウトに見せ、取り組んでいくことをお勧めします。

セーフ・フロム・ハームの取り組みは、

大人は 禁止事項を明確化し、ルールを守ります。

そして、良識を身につけ、ルールに従うことを学びます。

子どもは 大人が禁止事項を設けず、自分たちで考えます。

そして、相手の気持ちを思いやる心を育み、自らを守る

知識や技能を身につけます。

指導者の質の向上は、スカウト活動での安心かつ安全な楽しいプログラムにつながります。日本連盟の特設ページではeラーニングや各種資料を掲載しておりますので、参考にして意識的に活動に取り組んでいきましょう。詳細は、<https://www.scout.or.jp/sfh/> をご確認ください。

日本連盟相談窓口

日本連盟では、団内などで対応が難しい内容などの相談を受け、解決に向けて必要な支援を行う専用相談窓口を設置しています。

専用電話番号 03-6913-6277

e-mail sfh@scout.or.jp

※日本連盟事務局の移転に伴い、電話番号が変わりました。

参考 「ガイドブック」より引用

「セーフ・フロム・ハーム」のスカウト活動への提供は、年代によって理解すべき内容や対処法が異なることを考慮し、各年代に応じた「セーフ・フロム・ハーム」を実施しなければなりません。

ビーバースカウト、カブスカウト

ビーバースカウトやカブスカウトの年代では、友だちと仲良く、助け合うことを学ぶことによって、相手を思いやる心が芽生えます。また、ウソをついたり、ごまかしたりしないことを学ぶことができるのもこの年代です。動植物に優しい心で接し、命の大切さを学ぶこともできます。みんなで使う物を大切に、お世話になっている人々に感謝すること、友だちの気持ちを思いやることで、お互いの約束を守り、さらに社会のきまりを守ることの大切さを学ぶこともできます。

ボーイスカウト

思春期に入った年代では、いじめや暴力行為の様相が明確化し、その対応にも苦慮します。ボーイスカウト年代では、お互いに話し合いの機会を積極的に活用しながら、「セーフ・フロム・ハーム」を学びます。内容は、いじめや暴力行為をしないこと、相手や仲間が嫌がることをしないこと、知らない人とメールを交換しないこと、などについて理解し、対処法を学ぶ合うこともできるようになります。当然、指導者による、適切な助言が期待されます。また、実際に危険な目にあったり、目撃した場合に、いち早く上級班長や隊長、あるいは保護者に伝える方法についても学ばなければなりません。

ベンチャースカウト、ローバースカウト

この年代は、「セーフ・フロム・ハーム」についての理解も深まり、内容を把握し、危険に遭遇しないための配慮について学び合うことができます。特にこの年代で知るべき内容は、「基本的な権利としての個人の尊厳の大切さ」です。

「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会



スカウト運動への財政面でのご支援、誠にありがとうございます!

スカウト運動の支援には「人」「物」「財政」の3つの面があります。

維持会員として財政面でのご支援をいただくことは、スカウト運動の維持・発展において、大変重要な役割を担っています。

日本連盟では、この夏に開催した「第17回日本スカウトジャンボリー」などの主催事業をはじめ、青少年の健全育成のための事業を計画・実施しております。これらの事業を推進していくためには、皆さまからのご支援が不可欠です。現在、維持会員として、多くの個人・法人・団体の皆さまよりご支援をいただいておりますが、今後も引き続きスカウト運動への財政面でのご支援・ご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

あなたの10,000円は……

右図のような内訳でさまざまな事業に活用させていただいています。
(2017年度決算に基づいた例)



皆さまからのご厚志は

- 日本スカウトジャンボリー、日本アグーナリー（障がいのあるスカウト等の大会）等各種大会の開催
 - 国際社会で活躍・貢献できる人材育成のためのプログラム開発
 - 国際交流事業の積極的展開、野外教育活動の幅広い展開のための野営場・研修宿泊施設の整備、ボランティア指導者の育成強化、ボーイスカウト運動に参加いただくための普及事業等に活用し、ボーイスカウト運動の一層の発展のために役立てております。
- 皆さまにおかれましては、本運動の趣旨をご理解いただき、ご支援いただきますよう、お願い申し上げます。

維持会員の会費

- 入会されますと、会員章(襟章)をお贈りいたします(法人の場合は会員盾)。
- 「維持会員だより」等の定期刊行物によりボーイスカウトの活動状況をお知らせします。

通常維持会員	年額	1万円より
特別維持会員	年額	10万円より
法人維持会員	年額	10万円より

お申し込み・お問い合わせ

日本連盟ホームページから申込書がダウンロードできますのでご利用ください。

(URL) <http://www.scout.or.jp/support/index.html>

【お問い合わせ先】

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 担当:事務局 社会連携・広報部
TEL:03-6913-6262 / FAX:03-6913-6263 / Eメール:hello@scout.or.jp

維持会員(敬称略)

スカウト運動を財政面からご支援いただいている個人・法人会員の方々です。

ご支援ありがとうございます

2018年5~8月度

北海道	川合 俊昭	新井 三知夫	布施 海	高橋 一	津守 勝	勝男 清	清水 正	岩井会計事務所	矢崎 靖雄
北 秀 継	吉田 司	萩原 修音	信子 勇	坂山 直	鈴木 眞一郎	小島 明子	小島 正行	岩井和夫	B S あづみ2
市場 尚延	大河内 幸久	小松 俊一	陽市 陽	吉川 純	井上 俊昭	井上 正昇	手塚 昇	BS松本6育成会	B S 茅野 1
中川 笑子	千葉 利昭	國時 武雄	星 淳一	鈴木 武道	菊地 明彦	小林 司	堀野 浩	新潟中央青果(株)	(有)東郷堂
樟本 賢首	山本 高敬	船津 保雄	香取 香紀子	石窪 章	岡持 和朗	堀野 浩	衣笠 博介	(株)江口屋	富士コムテック(株)
西岡 浩	中川 猛夫	高松 富雄	岡岡 邦子	守屋 光高	奥村 勝利	木村 啓一	井沢 啓一	(株)新潟クボタ	(株)イデタ製作所
前田 和道	北林 正規	[埼玉]	杉村 直	中川 和之	塚原 欣一	高田 淳彦	高田 淳彦	石本酒造(株)	(株)新潟日報社
岡田 聡	総キムラ鋼板	繁夫 宗和	伊藤 知	山田 豊	中澤 征身	竹居 隆一	山並 茂彦	(株)新潟日報社	大栄魚網(株)
B S 札幌 1	秋田クボタ	板谷 喜代子	長谷川 泰之	内藤 優	田中 隆	木村 良成	栗芝 一八	(株)タカヨシ	朝日酒造(株)
北見BS育成会	[山形]	渡辺 修	藤本 寛行	太田 利子	佐藤 正明	B S 品川 6	B S 品川 2	北越コーポレーション(株)	中央ビルディング(株)
[青森]	大沼 保義	竹内 儀治	藤生 誠一	木村 耕三	岩波 幸市	B S 品川 3	B S 品川 8	[富山]	加藤 憲章
川島 明	佐藤 憲義	岡田 重治	白井 正治	佐藤 榮雄	杉野 健一郎	B S 品川 2	B S 品川 8	義浦 実	BS富山県連盟
三浦 雅人	加藤 光洋	登坂 重治	曾根 博	岡村 實	岡村 實	B S 品川 2	B S 品川 8	BS富山県連盟	川田ニット(株)
入間 正智	皆川 正勝	小野寺 昭夫	高橋 雅彦	守安 信介	岡村 弘子	B S 品川 2	B S 品川 8	川田ニット(株)	浜本 茂樹
和田 有平	山形放送(株)	亀井 實	山本 勲	鈴木 秀守	天霧 智博	湯島 天満宮	湯島 天満宮	[石川]	改田 秀一
門倉 等	(株)山形新聞社	松村 澄子	小林 恒行	鈴木 善守	今井 達	岡本 龍彦	岡本 龍彦	吉田 義明	岡本 弘志
[岩手]	[福島]	島田 重夫	大田 忠兵衛	天霧 智博	今井 達	安海 将広	安海 将広	高橋 剛	矢敷 雄一
千田 庄寿	工藤 信行	田中 哲	早坂 典男	今井 達	谷達 龍彦	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
高橋 春生	佐々木 道昇	坂本 裕夫	中川 孝之	谷達 龍彦	安海 将広	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
金田 弘子	赤城 良一	林田 俊介	岡田 清三郎	安海 将広	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
大坊 章	木田 晃平	村山 至	上原 進	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
末永 正志	[茨城]	栗原 均	森屋 啓	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
奥田 耕一	石塚 正夫	高橋 義雄	最首 守雄	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
清水 誠勝	佐野 英樹	堀江 誠一	田部 俊彦	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
佐々木 齊	戸館 善敬	樋渡 重和	篠田 哲彦	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
B S 釜石 2	小林 勇作	田中 政司	山下 すみ江	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
諏訪神社	青木 正志	高橋 義雄	丸 秀昭	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
(株)小田島	藤原 明彦	堀江 誠一	宇治 隆雄	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
日東自動車工業(株)	横川 浩	堀江 誠一	B S 市原 1	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
(株)元持	生田目 元典	堀江 誠一	BS松戸8育成会	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
菱和建設(株)	佐藤 一郎	堀江 誠一	(株)市川学園	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
[宮城]	三浦 勉	堀江 誠一	(株)新昭和	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
横澤 繁	若谷川 修平	堀江 誠一	[神奈川]	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
芳賀 文蔵	長生 悦男	堀江 誠一	藤重 敏	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
菅野 多利雄	若生 悦男	堀江 誠一	丸 茂	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
佐藤 元通	喜作 嶋田洋匡	堀江 誠一	木村 寿宏	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
和田 孝生	関彰商事(株)	堀江 誠一	土田 和男	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
佐藤 善久	[栃木]	堀江 誠一	上倉 哲夫	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
東海林 良雲	白澤 嘉宏	堀江 誠一	仲戸 川 勲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
橋浦 寛	新井 政一郎	堀江 誠一	若野 隆生	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
和田 剛和	平野 正之	堀江 誠一	市原 政喜	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
B S 仙台 27	源保 俊昭	堀江 誠一	田中 智	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
(株)菓匠三全	新田 博	堀江 誠一	斉藤 彰	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
渡辺米穀店	鴨志田 博	堀江 誠一	藤原 俊男	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
渡辺多喜子	立正佼正会鹿沼教会	堀江 誠一	井上 延義	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
(株)ごんきや	[群馬]	堀江 誠一	磯辺 磨梨子	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
佐川 芳子	河内 正美	堀江 誠一	作田 正巳	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
乳井 豊彦	奈良橋 俊宏	堀江 誠一	小島 清	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
安田 孝司	藤井 春俊	堀江 誠一	立川 征彦	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
藤原 隆	大井 由明	堀江 誠一		横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平
小場 文明	市川 幸宏	堀江 誠一		横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	横田 武憲	高橋 剛	若杉 幸平

Table listing names and affiliations for various groups including [島根], [岡山], [広島], [大阪], [山口], [佐賀], [長崎], [宮城], [静岡], [岡山], [日本], [和歌山].

マンズリーサポート維持会員
毎月1,000円から、クレジットカードでの自動引き落としによる維持会費のお支払いが可能です。
https://www.scout.or.jp/kifu/index.html
5~8月に入会または1年継続された方々です。

2018年度

スカウトの日

地球大好き！ I Love the Earth.

日程 9月17日(月・祝)

テーマ 地球大好き！ I Love the Earth.

活動場所 全国各地

後援 文部科学省、厚生労働省、環境省

協賛 一般財団法人セブン-イレブン記念財団



京都・京都第91団



岩手・盛岡第5団

スカウトの日 特設ページ

<http://scout-project.jp/>

今年も9月第3月曜日(敬老の日)の「スカウトの日」を中心とした日程で、全国各地においてさまざまな活動が実施され、各団から活動報告をいただきました。

例年同様、今年も環境保全や環境美化の活動に取り組む団が多く、神社や公民館、団ハウスや道路沿い、公園、駅周辺といった日ごろの活動で利用している場所の清掃活動を行ったという報告が数多く寄せられました。その中には、川沿いの草取り活動、道路の郵便ポストや橋の掃除、植樹を行う活動もありました。

海水浴場での清掃活動を終えたスカウトからは「亀などの海の生物が、ビニール袋を餌と間違えて食べて死んでいると聞いて、捨てるのはよくないとわかった」との声がありました。このほか、老人ホームの訪問や介護活動、西日本豪雨災害や北海道胆振東部地震などへの義援金募金活動、地域の一般児童を招待してスカウト活動を紹介する体験活動、防災プログラムなど多岐にわたる活動が行われました。

全国各地で実施された「スカウトの日」の活動報告は、特設ページでご覧いただけます。ぜひ、日ごろの活動や生活の場で自分たちにできることを考え、これを参考にして来年度の「スカウトの日」にもご参加ください。

スカウティングの 知っててちょっと良い話 No.50

最終回

ボーイスカウト日本連盟 前事務局長
吉田 俊仁

量と質について

17NSJも無事終了し、次の18NSJ(2022年)開催は東京に決定いたしました。2022年は日本連盟100周年にあたります。4年後が実に楽しみです。

さて、「知っててちょっと良い話」を始めたのは、2009年9月号、後藤新平の「自治三訣」からでした。私自身の関心や疑問をもとに、30年前から調べてきたことを下敷きにして書いてきました。そして、いよいよこのNo.50の「話」で終了いたします。そこで、最終回として私が今後実践していかねばならないと思うことを、先人たちの言葉を思い出しながら書きたいと思います。

三島通陽は、戦前の少年団日本連盟が「統制病」と「拡張病」に冒されていたことを反省し次のように主張しました。

—— こんど再建されるスカウトは、真のスカウトであるべきものでなければならぬ。決して数を誇ってはならぬ。真のスカウトで行こう。そして真のスカウトのみがアソシエーションを作れ。次に重要なことはパトロール・システムである。これを真にやるかどうかで、ボーイ・スカウトの団として、よい団になるか、ならぬかの別れ目になるのである。——

私は、以前このシリーズNo.39(本誌2016年7月号)で、グリーンパー訓練の重要性と、なぜB-Pはこのグリーンパー訓練を取り入れたかを述べておりますので、ぜひ読み返してください。

一方、佐野常羽は後藤新平総長追悼として次のように書いています。—— 自分が少年団教育に関与してから最早十年になる。その長い間に故後藤総長からよく伺ったのは、『量よりも質』という言葉であった。又総長は、『他に何も要らない』との事であった。今は心底に深く刻し

た遺訓として残る——

後藤新平総長の質とは、自治三訣でしょう。「訣」の意味は極めるという意味であり、質にも極めるという意味があります。

「質」とは、「ものを成り立たせている中身」であり、「どれだけ極められたか」です。また、スティーブ・ジョブスも「大事なものは量より質(Quality is more important than quantity.)」とっています。本運動の中身とは一体何なのか、そしてその中身を極めるにはどうすればよいのか？ このことを、もう一度考えてみましょう。私自身ももう一度スカウトと接してみて、果たして「スカウトは大人にやらされているのではなく、スカウティングが面白いから自らやっているのである」というB-Pの言葉どおりなのか？ 再考してみるつもりです。

また一方で、大人がこの運動に魅力を感じているひとつは、人間関係の構築でしょう。私が好きなB-Pの言葉に、「この運動を成功させる鍵は、個人的な触れ合いによるリーダーシップの育成である。(Leadership through personal touch is keynote to our success in the Movement.)」というのがあります。「Personal touch」実に良い言葉です。

さて、これまでの9年間、色々な方に支えられたことで(それこそPersonal touch)、この「知っててちょっと良い話」を続けることができました。本当に感謝しかありません。そこで私は、今後の本運動の発展とスカウトの健全なる発展を祈念し、万感の気持ちを込めて「両手」で弥栄を贈りたいと思います。

「弥栄！ 弥栄！ 弥栄！」ありがとうございました！

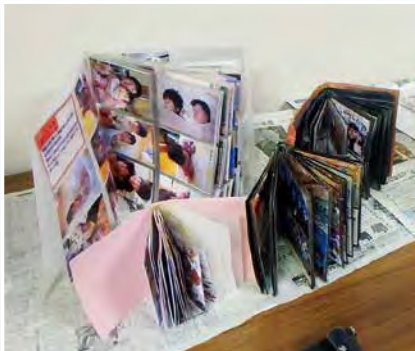
平成30年7月豪雨 支援状況

ここ数年、全国各地でさまざまな自然災害が発生しています。今年は夏から秋にかけて、「平成30年7月豪雨」「平成30年台風第21号」「北海道胆振東部地震」により、全国各地が立て続けに甚大な被害に見舞われました。今号では、平成30年7月豪雨における支援活動をご報告します。

岡山連盟ボランティア受け入れ

今回の豪雨により、県内の風水害として戦後最悪の被害を受けた岡山県。河川の氾濫や堤防決壊による浸水、土砂被害が連日報道されました。家屋全壊、浸水の被害にあったスカウト関係者の家庭もありましたが、被災したうちのスカウト1人は周囲の支援もあり、直後に開催した17NSJに無事参加できたそうです。

そのような状況下でも各地区で状況を確認し、県内スカウト関係者によるボランティア活動を早々に始め、8月には岡山連盟として県外よりスカウト関係者のボランティア受け入れを開始。各地から集まったボランティアへの宿泊所の提供や活動場所への輸送支援を実施しました。活動内容は土砂運搬や支援物資の仕分け、漂着物の撤去などさまざまです。9月に入ってから近隣のスカウトが多く集まり、泥水を被った写真の洗浄、乾燥作業など、心を込めて被災された方や被災地への支援を行いました。



義援金などの募金

この自然災害に対し、全国各地で多くの街頭募金等が行われました。皆さま、ご協力ありがとうございます。

※ 隊名や個人名等での報告でも、団名の記載があった場合は、団名で紹介しています。ご了承ください。

※ 9月30日受付分まで。(敬称略、順不同)

■ 日本赤十字社等を通じて被災者に直接送られる義援金

¥7,010,964

日本連盟に活動報告をいただいている団等(赤十字等への直送含む)。

【北海道】旭川12、旭川21、帯広7、登別1
【宮城】仙台1、仙台12、石巻2、石巻6、桶谷1
【山形】山形1
【茨城】筑西1、取手3、守谷1、阿見1、神栖1
【栃木】宇都宮15
【群馬】桐生22、群馬町1
【埼玉】川口19、新座3
【千葉】千葉9、野田5、浦安2、鎌ヶ谷1、大網白里1、東金1、佐倉2、松戸9、市原7、船橋14、我孫子1
【神奈川】横浜8、横浜27、横浜43、横浜57、横浜83、横浜88、横浜99、横浜107、横浜115、横浜116、茅ヶ崎2、大和2、秦野1、秦野2、綾瀬1
【東京】江戸川5、世田谷4、葛飾9
【新潟】長岡1
【富山】魚津2
【福井】武生5、丹生3、福井33
【長野】あづみ2、上田5

【岐阜】関1、関2、多治見1、各務原2、岐阜1
【静岡】富士1、富士2、富士4、富士6、富士8、富士9、富士10、富士11、富士14、富士15、御殿場6、浜松1、三島5
【愛知】東海1、岡崎8、豊田25、みよし2
【三重】伊賀1、桑名3、三重ローバース
【滋賀】犬上1、高島5、大津1
【京都】京都68
【兵庫】養父1、姫路2、姫路3、姫路8、明石2、加古川2、加古川5、尼崎3、尼崎7、尼崎26、神戸2、神戸4、神戸8、伊丹3、豊岡2、阪神さくら地区、理事会・財務委員会・職員有志、白子匡博
【奈良】檀原1、檀原8、奈良6、奈良20、大和高田12
【大阪】河内長野2、島本1、枚方15、吹田9、吹田15、高槻5、茨木1、箕面6
【近畿ブロック】近畿ブロック会議出席者有志
【鳥取】米子11、鳥取1、鳥取7、鳥取10
【高松】大社1、松江地区
【岡山】倉敷14、玉野1、西大寺5
【山口】下関7、山口3
【福岡】福岡14、福岡19、

福岡23、福岡37
【大分】大分1
【宮崎】宮崎5、宮崎15
【日本】17NSJ参加者

※ 17NSJでは、会場内各地に募金箱を設置。参加者、見学者からの募金と、オフィシャルショップで販売した大会ソングCDの収益を義援金としました。

■ スカウト関係者からスカウト関係者に対する見舞金

¥120,576

【宮城】泉2
【茨城】水戸8
【群馬】太田6
【千葉】千葉1
【神奈川】横須賀16
【三重】鈴鹿11
【兵庫】明石2、尼崎14、西播地区

■ ボーイスカウトによる支援活動をサポートするための災害活動支援金

¥84,088

【千葉】千葉2
【愛知】尾張東地区
【京都】京都36RS 隊OB会

台風および地震への募金等について

台風第21号および北海道地震の募金活動も各地で実施されており、皆さまからの報告を日本連盟にお送りいただいております。こちらの支援状況につきましては、今後掲載する予定です。また、現在、日本連盟で取りまとめている募金等は、いずれも本年12月31日を一区切りとして日本赤十字社へ送金いたします。皆さま、引き続きご支援いただきますようお願いいたします。



募金等、活動報告のお願い

日本連盟に届いた活動報告により使途を確認できた募金について掲載しております。募金活動を実施した場合は、直接日本赤十字社等へ送金された団等も含め、活動報告の提出にご協力ください。

※ 21頁の関連記事もご覧ください。

ローカルホットライン

Local Hot Line

団・地区・都道府県連盟だより

- ……団
- ⊗……地区
- ……都道府県連盟
- ◇……その他



宮城 ◇ありがとうございました

塩電第1団 ボーイスカウト 加藤 寿哉

僕は、宮城県の七ヶ浜町という小さな町に住んでいるスカウトです。僕がまだ、小学校1年生のときに東日本大震災が起きました。

それから間もなく僕はカブ隊に上進しましたが、カブ隊の隊長は津波の被害を受けていて、自宅もボーイの用品も流されていました。そんな隊長を全国のスカウトの方々が支援してくださっていました。それは、僕がカブ隊で学んだ証にいただいたチャレンジ章の袋に、支援してくださった方々の団の名前が書いてあったから分かりました。

千葉県野田第7団、神奈川県大和第6団、神奈川県座間第3団、新潟県新潟第15団、富山県上市第1団、兵庫県小野第1団、兵庫県三木第2団、徳島県鳴門第9団ほか、中には「日本が1つのチーム」というメッセージが書かれたものもありました。

これらのチャレンジ章を縫い付けたカブのタスキは、僕の大切な宝物になりました。いつか恩返しをしたいと思いつつ、僕は今年8月に石川県珠洲市で行われた、第17回日本スカウトジャンボリ

ーにボーイ隊として参加してきました。震災のとき、全国のスカウトの皆さんに支援していただき、僕は今までボーイスカウト活動を続けることができました。そのおかげでジャンボリーでは、「ジャンボリーゲーム日本一」のコンパス部門で1位となり、「日本一」になることができました。

震災当時、困っていたカブ隊長と僕たちスカウトを支援してくださった全国のスカウトの皆さんに、改めて感謝の気持ちを込めてお礼をお伝えしたいと思います。

支援してくださった皆さん、本当にありがとうございました。



滋賀 □発団50周年 VS 隊プロジェクト

大津第12団 ベンチャー隊隊長 山川 直之

私たち大津第12団が1967年5月14日に発団し、そろそろ50周年を迎えようとしていた2015年春、ベンチャー隊として何か記念に残る活動しよう、隊長の密かな計画も交えた壮大なプロジェクトを開始しました。内容はスカウトたちが地球上にGPSログで軌跡を描き、発団「50周年」の祝いを刻み込むことでした。

スカウトたちは天候や気温に苦い思いをしたり、

足の痛みと戦ったり、達成を喜んだり、時には離脱者を見送ったりと、活動ではさまざまな展開が待っていました。そして3年半もかかりましたが、12回に分けて総距離366kmをすべて歩き、地球上に「50」を刻むことができました。

大津第12団はこれからも歩き続けます。我がベンチャー隊もこれからの未来に向けて、より一層、果敢で活発な活動を展開していこうと思います。

鹿 児島 □避難時体験「野外生活(自分たちで食事を作る、テントで寝る)」

日置第1団 団委員長 西 幸司

地球温暖化の影響か、全国各地で豪雨による水害や体温よりも気温が高くなるという気象状態です。地元の平古公民館子供育成会の依頼を受けて、当団のスカウトと指導者が地域の子どもたちに向けた「避難所生活体験」行事を支援しました。

約30人の子どもたちが参加してくれました。日置市教育委員会より、青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」の教材動画やワークシートを利用して、自分の命を守り、家庭や地域社会でとるべき自分の行動を考えてもらいました。また、2016年の熊本地震の際に、ボーイスカウト災害ボランティア熊本活動基地へ鹿児島県連盟として参加したスカウトに体験談を話してもらい、災害に遭遇したときに「どう行動するか、避難所で周りの人々にどう奉仕できるか」を問いかけ、家庭でも保護者と話し合いができるようワークシートを共有しました。



指導を受けながらテントを張る子どもたち
＝日置市伊集院の平古公民館

災害避難想定テントに宿泊
伊集院平古子ども会
災害時の避難を想定し、小中学生が電気やガスを使わず食事を作り、テントで寝る「防災キャンプ」が4、5日、日置市伊集院の平古公民館であった。平古自治会子ども育成会（西郷裕夫会長）が主催し、ボーイスカウト日置第1団が協力。地域の小中学生を中心に27人が参加した。子どもたちはボーイスカウト指導者に教わりながら、公民館の庭にテントを設営。夕食は屋外のかまどで火をおこし、ご飯を炊き、カレーを作った。17人はテントで宿泊。伊集院小学校6年の東瀧輝君は「寝る前は暑かったが、夜中に目が覚めた時はひんやりした。災害が起きても対応できるように、しっかりテントを張れるようになりたい」と話した。（角倉貴之）



東京

◇僕の夢が叶った17NSJ

練馬第13団 ボーイスカウト 阿久津 輝

僕の夢は、多くの人を僕の歌で幸せにすることです。

今年開催された第17回日本スカウトジャンボリー閉会式直前のフリーパフォーマンスではトップバッターで歌を歌わせてもらいました。

僕はビーバースカウトから今まで活動を続けていて、今回初めてジャンボリーに参加しました。ボーイスカウトになってからずっと楽しみにしていたのですが、一緒に行きたかった僕が大好きなリーダーが、昨年7月6日に病気で亡くなってしまいました。

僕はそのリーダーをレジェンドリーダーと呼んでいます。フリーパフォーマンスの募集記事を見て、「そうだ！これだ！これでレジェンドリーダーをジャンボリーと一緒に連れていってあげられる」とひらめき、すぐに応募しました。石川県珠洲の大地、大きな空のもとで、僕が歌えば、きっとレジェンドリーダーにも感謝の気持ちが届くと思ったからです。

練馬第13団のネッカチーフリングをお守りに、夕日が沈みかけるころ、僕がお世話になっているピアノの加藤麗子先生がこのために演奏してくださいました音が奏でられたとき、一瞬の静寂から始まり、みんなから拍手をもらって、僕の声が天高くあがっていくのを感じました。

大好きなレジェンドリーダーはもういないけれど、僕はひとりでもスカウト活動を続けていけると勇気をもつことができました。ジャンボリーに参加し、たくさんのスカウトと友だちになれ、協力し合い、できることが増えました。

世界中の人とボーイスカウトで繋がりたい。そして、僕の夢である、歌で多くの人を幸せにすることをし続けていきます。

弥栄

焚き火と星空

シーカヤックでの海旅の楽しさは、空と海と陸の狭間での大自然という大きなステージで繰り広げられる太陽の光と影の織りなすダイナミックなドラマを実感する旅をとおり、感動と喜びを重ねていくことにほかならない。

かつて沖縄本島から真西方向に前島、渡嘉敷の無人島儀志布、座間味と漕ぎ渡り、北西方向の渡名喜島へ。そして渡名喜島から北北東方向42km先の粟国島へとシングル艇シーカヤックで漕ぎ渡った。沖縄本島から延べ約120kmの距離である。

粟国島はその島の形が、航空母艦が船尾から沈みかけている形をしていて、島の一番高い位置にある西の岬【筆ヶ崎】は海面からたったの70mしかなく、そこから東方向に直線で約3km斜めに下りていくと東側突端の位置にウーグ浜がある。つまりウーグ浜から西方向3km先には山がなく、3km先までほとんどまっ平らな島なのだ。ここからは、10月の中旬に北西方向地面スレスレに大きな蠍座がハッキリと見えるのだ。

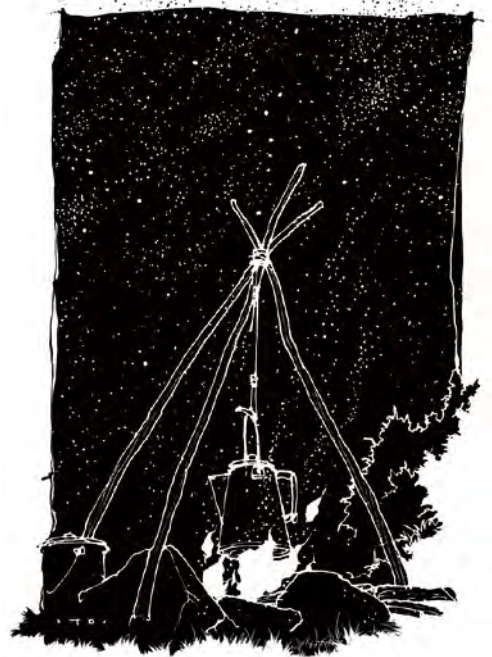
その日10月12日は、新月から2日目まで空には満天の星が輝いていた。もちろん人工的な明かりは何一つなく、ただ自分が熾した焚き火の灯だけである。

そんなウーグ浜で焚き火の横に寝転んで空を眺めていた。夜の8時、360度の満天の星空には天の川が天の頂きを南から北へと横切り、その川に添ってイルカ座が泳いでいた。カシオペア座右横のアンドロメダを薄目で覗き込み、天を横切る流れ星を何十個も数える。西の空一面に巨大な蠍座がその全体像を現し、アラビアン・サーベルの細い三日月を左手でつかまえようとしていた。

寝転んで天の頂きをズ〜ッと眺めてみると、天も地もなく自分だけの体が星空の中に浮かんでいる感覚になってくる。11時、東の空にオリオン座がいつものまにか現れていた。それから遅れること1時間半、真夜中の0時30分を過ぎたころ、東のはるか水平線の雲間からシリウスが7色の光でキラキラ輝き始めた。1時30分を過ぎたあたり、約30度の角度でシ

リウスはいつもの白い光になった。

焚き火に薪をくべながら、一晚中オリオンとシリウスを眺め続けていた。

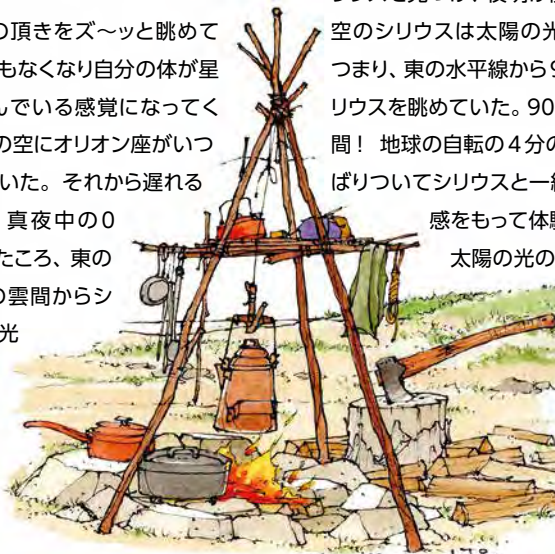


朝5時、東の空が少し明るくなってきた。5時30分、小さな星たちはいつものまにか姿を消し、星の数は半分になっていた。6時には1〜2等星だけになり、東の空が明け始めた6時20分には1等星のシリウスだけが、うす青くなった南の空に消えていった。6時30分、真東の水平線から真っ赤な太陽が輝きだした。

輝く太陽の光を浴び、ふと気がついたことがある。

真夜中の0時30分に東の水平線の向こうにシリウスを見つけ、夜明け前の6時20分、南の天空のシリウスは太陽の光の中に消えていった。つまり、東の水平線から90度真南の天空までシリウスを眺めていた。90度ということは、約6時間！地球の自転の4分の1、わたしは砂浜にへばりついてシリウスと一緒に「地球の自転」を実感をもって体験したことになるのだ。

太陽の光の中、地球の「自転」を肌で感じた秋、10月13日「ウーグ浜」の朝である。だからシーカヤックのひとり旅はやめられない！のである。



イラスト&文：伊東孝志

いとうたかし／南国・無人島へのシーカヤック放浪旅をこよなく愛する、奄美大島生まれの小学56年生。ヤドカリを人生の師と仰ぎ、筆先に北斎を見つめ、水彩の楽描(らくがき)を糧として、奄美・沖縄～東京を拠点にアウトドアライフな、古今東西南北の日々を漂流する。

●伊東孝志ブログ「道草楽描／みちくさらくがき」～<http://michikusa-rakugaki.blogspot.com/>

スカウティングとウッドクラフト⑦

中村知連載「ウッドクラフトとは」で振り返る、 ボーイスカウト日本連盟再建後の ウッドクラフト教育



19世紀末のベーデン・パウエル (B-P) の著作からほぼ時の流れに沿って取り上げてきたこの連載のテーマも、20世紀半ばのものとなりました。

第2次世界大戦が終わった翌々年の1947(昭和22)年5月、後にBS日本連盟の総長となる三島通陽みしまみちひろは日本のボーイスカウト運動再建について、「今度、はじめられるべきスカウトは、純粹のボーイ・スカウトでなければならぬ」と述べています(東京ボーイ・スカウトクラブ発行『ジャンボリー』誌創刊号)。

中断していた日本のスカウト運動は戦後再建の道を歩み、スカウティングとウッドクラフト教育の関係を改めて検証する機運も生じました。

その流れの中で、中村知(連載当時、日本連盟囑託)は「ウッドクラフトについて」という論考を『スカウティング』誌に寄せました[1966(昭和41)年7・8月合併号～12月号]。今号は、スカウトにとってウッドクラフト習得はどのような意義をもつのかを考察したこの連載を取り上げます。(敬称略)

中村知「ウッドクラフトとは」

「ウッドクラフト」の内容

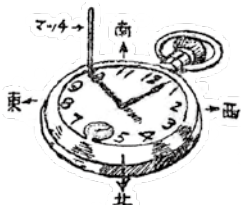
(この連載は、読者の皆さんもともに考えていただけるように、今でも手に入れることができる資料を基にしています。以下の引用文は初出誌からではなく、右にあげた参考書籍①からのものです)

中村はまず、ウッドクラフトとは具体的に何かを考えます。

英和辞典で、Woodcraftをひくと、森林(山)の知識(特に狩猟についての)森林学、木彫り、木彫り術という訳が出てくる。

ところが、実は、以上のものをふくめた、ひじょうに広範な森林生活法なのである。木樵法きせうほうもあれば測地法もあるし、追跡、忍び寄り、読地図、方位判定、結索、縛材、開拓術、架橋、動物、植物、鉱物、天文、野営法など、われわれが通常スカウト技術といっているものすべてをふくみ、スカウトとしては手の及ばない高度の専門的技術までふくめている。探検術もある。そして単なる知識にとどまらない。

と述べ、「ウッドクラフトというものは野外生活法なのである」と、すなわちスキルにとどまらないとまとめ、さらに、



ベーデン・パウエルは、ウッドクラフトと観察力、判断力とを、スカウトの資質の第一と第二とにあげていることに注目せねばならない。これに次いで、任務に対する忠誠、騎士道、勇気と忍耐の三つをあげている。彼が、いかに、ウッドクラフトおよびそれに伴う観察訓練を、重要視して、それをスカウト資質の第一と第二にあげたかに注目しなければならない。

と、スカウティングとの関連に言及しています。

B-P ならではの ウッドクラフト教育

中村はさらにシートン、ベアード、ケファートの業績を分析します。この3人は、20世紀冒頭のアメリカで人間性の回復のためのウッドクラフト体験の重要性を唱えた作家、画家、旅行家。シートンとベアードはそれぞれ、Woodcraft Indians、Sons of Daniel Booneという野外教育団体を主宰しており、協力してBSアメリカ連盟を創立しました。3人の業績などは『スカウトスキル・セレクション』(2016年、日本連盟発行)の「ウッドクラフトとスカウトスキル」の項を、シートンのスカウティングについては、本連載の③と④を参照してください。

シートンとダン・ベアードの二人は、画家として出発し、野生動物に愛情を感じたことが、ウッドクラフトへの導きとなり、ケファートは、道に迷い、荒野で暮らす生活の必要からウッドクラフトに入門したものと考える。そういうちがいがみると、ベーデン・パウエルの出発点は、ゴダルミン[編集部注:ロンドン西南、B-Pの学んでいた寮制の学校があった地]での少年時代の経験が出发点であり、後年騎兵将校となってその職掌とする観察、推理で根をはったと、私は考える。

と述べ、さらに「シートンやダン・ベアードや、ケファートのウッドクラフトは、教育というほどのものではなかったがベーデン・パウエルのウッドクラフトは、それが「教育」活動に展開された」と続けます(戦後にスカウトとして育った方には、あるいはインターネットが普及し資料や洋書が簡単に手に入る現代では、シートンなどに対する低い評価は、異論があるかもしれません)。

換言すれば「ウッドクラフトは」Scoutingという新しい教育活動にふ化したのだ。Scoutingとい



中村 知
(なかむら・さとる)

1893(明治26)年、愛媛県松山市に生まれる。1929(昭和4)年、第3回世界ジャンボリー日本派遣団に選ばれ渡英。ギルウェル実修所のスカウト・コースとウルフカブ・コースを修了して帰国。

1939(昭和14)年、少年団日本連盟教務部長、41年からは戦時中の国策団体「大日本青少年団」で指導的役務に就く一方で、連盟の財産を継いだ「健志会」の存続に努めた。戦後は日本連盟の再建に奔走、1958(昭和33)年、BS日本連盟事務局奉仕部長となる。

その後の日本連盟囑託時代には、『スカウティング フォア ボイズ』、『ローバリング ツウ サクセス』などのB-Pの著作の翻訳をはじめ、『スカウティング』誌にスカウト運動、とりわけ信仰奨励に関する論説を数多く寄せている。仏教徒。作詞作曲も得意だった。

1973(昭和48)年、病没。享年80。



今号に載せた少し古めのイラストは、中村の連載と同じ時期の『ボーイスカウト ポケットブック』[1966(昭和41)年・日本連盟発行・定価50円]のもので、B6判の

このハンドブックには、わずか128ページの中に、キャンプやロープワーク、救急法などのスカウトスキルはもちろん、ちかいとおきて、スカウティングの歴史や特長から、進級課題一覧、ゲームや歌、プログラム進行のアドバイスなど、あらゆる項目が詰め込まれていました。解説は簡潔でしたが、スカウトは「まずやってみて考える」、「それでもわからないことは、班長やリーダーにどんどん聞く」という心構えのもとで、活用していたようです。

う成虫からみれば、その幼虫が Woodcraft なのである。すなわち、ベーデン・パウエルのウッドクラフトはウッドクラフトのままでおしまいになるウッドクラフトではなく、スカウティングに伸びる要素としてのウッドクラフトである、ということになる。

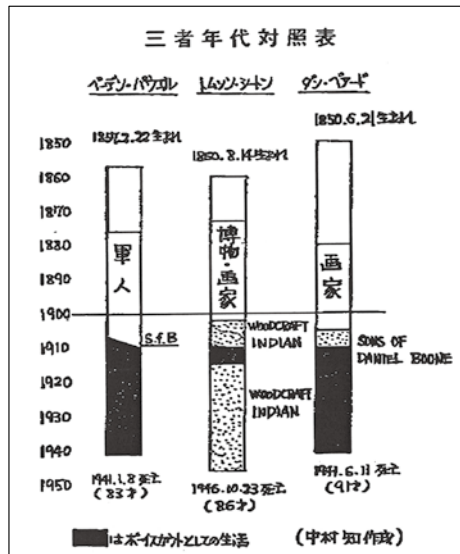
とまとめ、連載の終盤では、B-P の「最後のメッセージ」に関連して、

“Rovering to Success”を翻訳するにおよんで、これ [B-P の幸福論] はウッドクラフトが、人を幸福にさせる一つの方法であること。そして、その大自然の書いたサインによる『大自然パイプ』の解説ができれば、そこに神の存在とその恵みを見出すにいたる、という暗示を発見した。

とまで述べています。

こうして中村は、B-P の教育方針を高く評価し、奉仕と信仰の精神を視野に入れ、スカウティング

とウッドクラフト習得教育の意義を明らかにし、当時増えつつあった日本のリーダーたちへ指導指針を示したのです。



中村が描いて連載時に挿入した表。BS のイギリス連盟、アメリカ連盟の発足は1910年。S.f.B は『スカウティング・フォア・ボーイズ』のこと。ベアードの享年は正確には90。

三島総長がスカウティングの「純粋性」を唱えた『ジャンボリー』誌は、戦前も東京連合少年団よりスカウト向けに発行されていました。その1933(昭和8)年3月号に右のような『日本少年団教範』(二荒義徳・三島通陽共著 少年団日本連盟発行)の近刊予告が載っています。宣伝文には、こうあります。

日本の少年団は日本の少年団教範によつて訓練せねばならない。いつまでも外国の少年団教範を参考としている事は世界に誇る大日本の健児の遺憾とする処である。〔本誌編集部：漢字は新字体に改めました〕

この前年、日本連盟では、品切れが続いていた『少年団教範』[B-P の「スカウティング・フォア・ボーイズ」の日本で初めての全訳本。1925(大正14)年発行)を、連盟発足10周年の記念として改訂し、一般の出版社より発行したばかりでした。すでに1931年に満州事変、32年には上海事変が起き、戦時色がますます濃く

なっていく時期のことでした。『日本少年団教範』という表題の本は発行されませんが、少なくともこのような企画がすぐに立てられたのです。この先、日本連盟の教育方針もさらに変容し、ウッドクラフト教育の目的も変わってしまうことになります。



しかし1945(昭和20)年に戦争が終わり、どの教育運動が優れているかを自由に論じ、実践できるようになりました。運動の優劣より、まずこのことが重要なのではないのでしょうか。改めてスカウト運動が試される時代となったのです。そして、幸いなことに毎年スカウトが増える時期を迎えることができたのです。

参考書籍

①『先人にまなぶ』「先哲のおしえ」
鈴木國夫編纂 / 2016年 / ボーイスカウト日本連盟発行 / 定価1,400円(税込)



中村知はもとより、中野忠八など、日本のスカウト運動を支えてきた中心的指導者8人の履歴や遺稿を収録。ボーイスカウトエンタープライズで販売中。

②『先人にまなぶ』「歴代総長のおしえ」
鈴木國夫編纂 / 2015年 / ボーイスカウト日本連盟発行 / 定価1,400円(税込)



初代後藤新平から第7代渡邊昭までの総長の履歴や遺稿を収録。ボーイスカウトエンタープライズで販売中。

③『先哲のおしえ 中村知にまなぶ』
鈴木國夫編纂・発行 / 2017年 / 頒価1,200円(税込)



上記既刊本に収録できなかった中村の考察を収録。ボーイスカウトエンタープライズで取り扱い中。なお、随想集『ちーやん夜話集』(1970年刊。絶版だが茨城県連盟のホームページなどにアップされている)でも中村の見識を知ることができる。

■ダン・ベアードの一冊



Daniel Beard "A SCOUT'S BOOK OF SIGNS, SIGNALS and SYMBOLS"



中村の存命していた時代は、洋書の入手も大変で、ダニエル(ダン)・ベアードについてもあまり知られてはなかった。この夏、Dover社から復刻された、1918年刊のこの本は、追跡サインなど、スカウトやアメリカ・インディアンが使う信号やサイン、記号などを網羅。100年前のウッドクラフトだが、街の交通信号や手話なども入っており、ベアードもスカウティングが森の中に留まる教育ではないと考えていたことがわかる一冊となっている。ネット書店では税込1,500円前後で発売。

1950年、日本連盟は国際事務局に再登録を認められました。スカウトの国際組織である世界スカウト機構(WOSM)には、現在、169の国と地域にある連盟が加盟しています。

WOSMからは、デジタル版を含めさまざまな教育資料が出版されています。

ウッドクラフトは其中で、「自然の中での生活(Life in Nature)」として「ちかいとおきて」「実行によって学ぶ」「小集団の活用」などとともに「スカウト教育法の要素」に取り上げられています。

次号では、このWOSMの資料を基に、現代の「スカウティングとウッドクラフト」について考えてみましょう。



前回の本誌連載(2018年7月号)の年表中、右端に以下の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

- (1) B-P の没年と享年(満年齢)
 ■ 1940 逝去(84歳)
 □ 1941 逝去(83歳)
- (2) シートンの没年
 ■ 1945
 □ 1946(享年は86のまま)
- (3) 中野忠八の享年(満年齢)
 ■ 逝去(66歳)
 □ 逝去(64歳)



ボーイスカウト PR ムービーコンテスト

入選作品発表!!

昨年度より実施している「ボーイスカウト PR ムービーコンテスト」。今年度も、スカウト活動を楽しく表現している作品ばかりでした。日本連盟社会連携・広報委員会による厳正なる審査の結果を発表いたします。

入選作品の映像は、本コンテストの特設ページからご覧いただけます。

<https://www.scout.or.jp/2pmc/>

最優秀と優秀に選ばれた作品の撮影者には、パナソニック株式会社にご協賛いただいたウェアラブルカメラをお贈りいたします。また、ご応募いただいた皆さまに、参加賞としてワッペンとステッカーをお贈りいたします。

来年度も、皆さまから多くのご応募をお待ちしております。



団が募集するときに使えるような内容になっているところがよかったです。映像の中に夏と冬があり、季節を考えるとちゃんと撮り貯めていたところに工夫と手間を感じました。

タイトル

ボーイスカウトって何?

静岡・三島第5団 団委員

鈴木 信司

部門・テーマ: イメージ PR・アクティブ

私は美容師をしています。仕事柄、ボーイスカウト対象年齢前のお母さんたちと話をする機会が多いのですが、「ボーイスカウトって知ってる?」と聞くと、残念ながら答えは「キャンプ・ハイキング・募金・小学生」のイメージしか返ってきません。「ボーイスカウトは子どもが成長の過程で、さまざまな体験や経験を通じて仲間と一緒に楽しく学び、将来社会に貢献できる大人を育てる活動」ということを多くの方にわかりやすく伝えるために、この動画を作りました。

最優秀



ストーリーがあって、ワクワク感が伝わってきます。最後にオチがなかったのが少し残念。次回、また最優秀を目指してください。

タイトル

青木ヶ原に逃げた「青龍」を探せ!

東京・小平第1団 ボーイスカウト隊副長

高久 秀之

部門・テーマ: スキル・ハイキング

今年8月、山梨県西湖で行ったカブ隊の夏舎営でのハイキング。そのテーマは「逃げた青龍を探せ!」。

多感な年代のカブスカウトたちの好奇心に火をつけることを目的に、単純なハイキングではなく、青木ヶ原特有のさまざまな地形や地理を利用しながら、中国の神話であり古文にも登場する「青龍」「白虎」「朱雀」「玄武」を登場させ、推理をテーマとしたハイキングを企画しました。

優秀

WELCOME!

新スカウト会館

2018年10月1日(月)、新しい「スカウト会館」をオープンいたしました。東京・新宿駅から約30分のところに位置します。会議室の設備もあり、スカウトライブラリーも近日オープン予定です。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。



2F

組織・管理部
教育開発部
スカウト用品部
社会連携・広報部
応接室

1F

スカウトライブラリー
会議室

住所 〒167-0022 東京都杉並区下井草 4-4-3

電話 03-6913-6262 (代表)

FAX 03-6913-6263

アクセス 公共交通機関利用の場合

- JR中央線荻窪駅、東京メトロ丸ノ内線荻窪駅の北口より、関東バス「下井草駅」行(荻10)乗車。「中瀬中学校」下車、徒歩1分。
- 西武新宿線下井草駅より、関東バス「荻窪北口駅」行(荻10)乗車。「中瀬中学校」下車、徒歩約2分。

徒歩の場合

- 西武新宿線下井草駅より徒歩約15分、井荻駅より徒歩約10分。

※駐車場はございませんので、公共交通機関等を使ってご来館ください。

欲しい未来へ、寄付を贈ろう。

Giving December

寄付月間 2018

12月は「寄付月間」!!

「寄付月間 (Giving December)」は、寄付により人々の幸せを生み出す社会をつくるためにNPO、大学、企業、行政などが協働で行う、12月1日から31日までの全国的なキャンペーンです。

一人ひとりがこの機会に寄付について考えたり、実際に寄付をしてみたり、「寄付月間」についてソーシャルメディアで広めたりするだけでなく、寄付を受ける側が寄付をした人に感謝して、きちんとその使い道を報告できるようにしたいという考えのもとで活動します。

ユニセフ募金や災害時の募金などでボーイスカウトが募金箱を持って街頭に立つことは、実際に集まる募金額以上の「力」となり、いろいろなことにつながります。災害が起きた時に何かしたいけれど何をしたら良いかわからないという人には、募金を通じて「役に立った気持ち」をもってもらうことができます。このほか、世界中でスカウトと同じ年代の子どもたちが貧困や不衛生に苦しんでいることを、募金活動を通じてスカウトや募金をする人たちが知ることもできます。

募金活動には、集めた金額以上の大きな効果があります。そこでボーイスカウト日本連盟では、この「寄付月間」という機会を生かし、募金をキーワードに、2つのキャンペーンを実施します。



キャンペーン①

描いてみよう! 夢の募金箱

歩く募金箱、お金を入れると笑う募金箱など、「こんな募金箱があったらいいな」を全国から募集します。素敵なアイデアをお待ちしています。もしかすると皆さんのアイデアが実際の募金箱になるかも!?

また、皆さんが実際に作った募金箱の写真も大募集。どんな募金箱で協力を呼びかけているか、教えてください。

キャンペーン②

全国募金箱調査!

「寄付月間」の12月1日~31日の期間に、全国でどれほどのボーイスカウトが募金活動を行っているか調査し、寄付月間推進委員会に報告します。

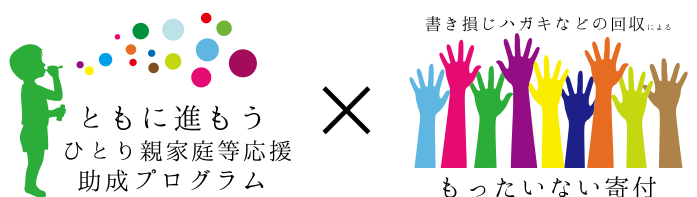
調査フォームはこちら

<https://goo.gl/forms/Wa9SOIStB55a87eE2>

※キャンペーンの詳細は、日本連盟ホームページをご確認ください。

集めよう! 書き損じはがき

現在、日本では7人に1人の子どもが貧困状態にあるといわれています。ボーイスカウトでは、スカウト活動に参加したくても経済的に参加することが困難なひとり親家庭を応援するために「ともに進もう助成プログラム」を実施しています。この助成金の原資となる「もったいない寄付」では、書き損じはがきや使用済み切手等を集めています。隊や団だけではなく、皆さんの身近な人や企業、団体へ協力の呼びかけをお願いします。



ともに進もう
ひとり親家庭等応援
助成プログラム

書き損じはがきなどの回収

もったいない寄付

詳しくは日本連盟ホームページをご覧ください。

<https://www.scout.or.jp/support/moxtutainai/index.html>

日本連盟情報 Nov. 2018

10月上旬までの会議・研修など

6月

- 15日(金) ● 100周年記念史編纂委員会(第10回)
- 16日(土) ~ 17日(日)
 - 第17回日本スカウトジャンボリー実行委員会(第12回)
 - 全国防災キャラバン2018(奈良)
- 17日(日) ● 第17回日本スカウトジャンボリーサブキャンプチーム会議(第5回)
 - 全国防災キャラバン2018(茨城)
 - 全国防災キャラバン2018(和歌山)
 - 全国防災キャラバン2018(徳島)
- 20日(水) ~ 24日(日)
 - リーダートレーナーコース第37期
- 20日(水) ~ 26日(火)
 - アジア太平洋地域防災セミナー(韓国)
- 23日(土) ● 合同常設委員会(全体会)
 - プログラム委員会(第2回)
 - 指導者養成委員会(第2回)
 - 国際委員会(第2回)
 - 社会連携・広報委員会(第1回)
 - 「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会(第2回)
 - 信仰奨励委員会(第1回)
 - 中途退団抑止特別委員会(第1回)
 - 第17回日本スカウトジャンボリー配給・食堂専門部会(第6回)
- 23日(土) ~ 24日(日)
 - 団支援・組織拡充委員会(第1回)
- 26日(火) ● 「大和の森 高萩スカウトフィールド」の活用等に関する協議会(第2回)
- 27日(水) ● 第17回日本スカウトジャンボリー信仰奨励プログラム打ち合わせ会(第5回)
- 28日(木) ● スカウトと社会をつなぐ場所(第10回)
- 30日(土) ● 第17回日本スカウトジャンボリー広報専門部会(第4回)
- 30日(土) ~ 7月1日(日)
 - RCJ Re:Quest 実行委員会(第4回)

7月

- 1日(日) ● 日本連盟ディレクター会議(第2回)
- スカウトソング特別委員会(第1回)
- 3日(火) ● 運営会議(第4回)

- 7日(土) ● 第24回世界スカウトジャンボリー派遣実行委員会(第3回)
 - 第17回日本スカウトジャンボリープログラム専門部会(第7回)
 - 第17回日本スカウトジャンボリー輸送専門部会(第5回)
- 14日(土) ~ 15日(日)
 - RCJ運営委員会(第2回)
- 14日(土) ~ 16日(月)
 - 茨城県委託事業 NEALリーダー養成講座
- 15日(日) ~ 16日(月)
 - 第17回日本スカウトジャンボリー会場運営専門部会(第3回)
- 22日(日) ● 全国防災キャラバン2018(北海道)
 - 全国防災キャラバン2018(静岡)
- 22日(日) ~ 8月26日(日)
 - スカウト・オーストラリア短期留学派遣
- 23日(月) ● 臨時理事会(第2回)
- 31日(火) ~ 8月7日(火)
 - 第5回韓国国際パトロールジャンボリー派遣

8月

- 1日(水) ~ 8日(水)
 - CJKベンチャープロジェクト派遣(台湾)
- 4日(土) ~ 10日(金)
 - 第17回日本スカウトジャンボリー
 - 第14回台湾ローバームート派遣
- 17日(金) ~ 23日(木)
 - 第14回台湾ローバームート派遣
- 18日(土) ~ 19日(日)
 - 茨城県委託事業 親子キャンプ
- 23日(木) ~ 26日(日)
 - RCJ Re:Quest
- 25日(土) ● 茨城県委託事業 高萩スカウトフィールドまつり(茨城DAY)
- 30日(木) ● 全国防災キャラバン特別編

9月

- 1日(土) ~ 2日(日)
 - スカウト教育推進会議(第2回)
 - 全国防災キャラバン2018(千葉)
 - 全国防災キャラバン2018(岐阜)
 - 全国防災キャラバン2018(愛知)

- 全国防災キャラバン2018(兵庫)
- 全国防災キャラバン2018(大阪)
- 全国防災キャラバン2018(香川)
- 全国防災キャラバン2018(大分)
- 4日(火) ● 運営会議(第5回)
- 8日(土) ● 名誉会議(第1回)
 - 全国防災キャラバン2018(福岡)
- 9日(日) ● 団支援・組織拡充委員会(第2回)
 - 全国防災キャラバン2018(兵庫)
 - 全国防災キャラバン2018(岡山)
- 11日(火) ● 100周年記念誌編纂委員会(第11回)
- 14日(金) ● 財務委員会(第3回)
- 16日(日) ● 第24回世界スカウトジャンボリー派遣実行委員会(第4回)
 - 安全促進フォーラム(東京会場)
 - 全国防災キャラバン2018(大阪)
- 16日(日) ~ 17日(月)
 - 日本連盟ディレクター会議(第3回)
 - スカウトの日(全国各地)
 - 全国防災キャラバン2018(埼玉)
- 21日(金) ~ 24日(月)
 - ウッドバッジ実修所 BS 課程第196期
- 22日(土) ~ 24日(月)
 - 茨城県委託事業 NEALインストラクター養成講座
- 23日(日) ● 全国防災キャラバン2018(愛知)
- 29日(土) ● 安全促進フォーラム(岐阜会場)
- 30日(日) ● 全国防災キャラバン2018(山形)
 - 全国防災キャラバン2018(富山)
 - 全国防災キャラバン2018(沖縄)

10月

- 1日(月) ● 新スカウト会館オープン
- 2日(火) ● 運営会議(第6回)
- 5日(金) ~ 8日(月)
 - ウッドバッジ実修所 BS 課程第197期
- 7日(日) ● 共済運営委員会(第3回)
 - 全国防災キャラバン2018(福島)
 - 全国防災キャラバン2018(埼玉)
 - 全国防災キャラバン2018(鳥取)
 - 全国防災キャラバン2018(愛媛)
 - 全国防災キャラバン2018(宮崎)
- 8日(月) ● 全国防災キャラバン2018(群馬)
 - 全国防災キャラバン2018(千葉)

第46回 全国ボーイスカウト写真コンテスト作品募集

2/28(木)しめきり



【応募用紙】 ※点線で切り取って、写真の裏に貼ってお出しく下さい(コピー可)。

第46回 全国ボーイスカウト写真コンテスト		応募部門	少年の部・青年成人の部	
タイトル				
(フリガナ)	年齢	住所	〒	
名前	歳	都道府県	市区	郡
連絡先	電話番号	メールアドレス		
作品についてのコメント				
ボーイスカウト加盟員は記入				
登録番号:	所属:	第	団	隊 役務

全国ボーイスカウト写真コンテストも、今回で46回を数えることとなりました。仲間と一緒にスカウト活動を楽しんでいる様子を写真に収めてご応募ください。たくさんのご応募、お待ちしております。

【締め切り】2019年2月28日(木) 当日消印有効

テーマ/ボーイスカウト

サブテーマ:「笑顔」「野外活動」「友情」 ※少年の部はテーマ自由

■部門 「少年の部」撮影者が中学生以下、「青年・成人の部」撮影者が高校生以上 ■サイズ サービス判以上四つ切り以下 ■応募方法 写真の裏に応募用紙を貼って送ってください。 ■審査委員長 田沼武能氏(写真家) ■主催 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 ■発表 本誌2019年5月号に掲載予定(入賞者には直接通知します) ■応募上の注意 ○保護者の方が応募される際は、お子さんの所属団と隊名、役務に「保護者」とご記載ください。○応募作品は、2018年1月以降に撮影した未発表のもので、肖像権を有する人物および建築物などが写っている場合は、応募に際し、権利者(未成年の場合はその保護者)の了承を得てください。なお、被写体となった方の個人を特定できないよう、名札類や団号章などは画像に処理加工を施す場合があります。○応募作品は返却いたしません。○データのみ応募は受け付けできません。○入賞作品は、データの提出をお願いしますので、必ず連絡のとれるメールアドレスや電話番号をご記載ください。○応募作品は、入賞発表のほかに日本連盟の印刷物等に掲載することがあります。 ■応募先 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟事務局 社会連携・広報部

全国のリーダーに新年のご挨拶を!

SCOUTING 2019年1月号

新春 名刺交換のご案内



いつも機関誌「スカウティング」をご愛読いただき厚くお礼申し上げます。

さて、来年も「スカウティング」1月号に、恒例の「新春 名刺交換」のページを設けます。お名前のほか、15字程度のメッセージを添えることもできますので、全国のスカウト指導者の皆さまへの年始のご挨拶として、年賀状代わりにぜひご利用ください。皆さまのお申し込みをお待ちしております。

■規格: 1口 24ミリ×62ミリ(横型)

※原稿は、お名前の他に住所等の連絡先、役職名または、15字程度のメッセージとします。

謹賀新年 今年もよろしく
ボーイスカウト□□□□連盟○○○地区

委員長 鈴木 一朗

〒167-0022 東京都杉並区下井草4丁目4番3号
tel 03-6913-6262 E-mail scouting@scout.or.jp

■掲載料: 1口 8,000円(消費税込)

■締め切り: 2018年11月16日(金) 必着

■原稿:

Eメール・FAX・郵送でお送りください。お申し込みは最大66口(1頁33口×2頁/見開き)まで承ります(書体の指定はご容赦ください)。なお、自筆(毛書体など)原稿をそのまま掲載することやイラスト、ロゴ等の挿入が可能です。ご希望の方は規格サイズのデータを作成の上、ご送付ください。デジタルデータの場合はご相談ください。

■送金方法: 次のいずれかの方法でお送りください。

郵便振替

00130-1-56119 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

銀行振込

三菱 UFJ 銀行 春日町支店 普通預金 No.0383873

みずほ銀行 本郷支店 普通預金 No.2855005

※いずれも、口座名は「公益財団法人ボーイスカウト日本連盟」

現金書留

「名刺交換」と明記の上、日本連盟 社会連携・広報部宛にご送付ください。

※郵便局または銀行が発行する受領証をもって領収書にかえさせていただきます。特に領収書が必要な場合はご連絡ください。

■お申し込み・お問い合わせ先:

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟事務局 社会連携・広報部

〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3

TEL 03-6913-6262(代表) / FAX 03-6913-6263

Eメール scouting@scout.or.jp

2019
No.729
1

SCOUTING

次号予告 次号の『スカウティング』は、2019年1月1日発行

お正月特大号

2019年。日本連盟創立100周年まで3年となる新たな年の始まりです。毎年恒例の新春名刺交換や理事長、日本連盟コミッショナーの新春メッセージなどを予定しております。

なんでも応募先

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟事務局「スカウティング」投稿係
〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3
電話 03-6913-6262(代表) FAX 03-6913-6263 Eメール scouting@scout.or.jp

投稿規定 / 本誌では読者の皆さまからの投稿を常時受け付けています。投稿が掲載された方には、掲載誌と記念品をお送りしています。投稿は、文字数400字で写真3枚を目安にしてください。新聞掲載記事は、新聞名、掲載日を明記してください。なお、お送りいただいた写真や新聞記事は原則として返却しませんのでご了承ください。お送りいただいた投稿は、抜粋しての使用や一部を編集させていただく場合があります。また掲載できない場合もあります。あらかじめご了承ください。たくさんのお投稿をお待ちしております。

日本連盟ホームページ <https://www.scout.or.jp>

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

「スカウティング」2018年11月号 No.728 平成30年11月1日発行(奇数月1日発行)
発行 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3 <https://www.scout.or.jp>
「スカウティング」は、全国のボーイスカウト指導者(隊指導者、団委員、スカウトクラブ構成員、地区・県連盟・日本連盟役員)に1冊お送りしています。加盟登録住所にお送りしますので、住所の誤り、変更がある場合は回での登録住所変更の手続きをお願いします。登録システムに伴い、①4月~8月に新規 追加登録申請が承認された場合:5月号から当該月号を同時に送付(例:8月承認の場合は9月号に5月号、7月号を同時) ②9月~翌年3月に登録申請が承認された場合:11月号から当該月号を同時に送付。9月以降の「追加登録」で、5月号~9月号をご希望の場合は、日本連盟事務局社会連携・広報部にご相談ください。バックナンバーの在庫がある場合はお送りいたします。発行月の前月10日以降は、送付作業工程に間に合わないため、当該月号は次号に同封されます。なお本誌の購読料は、登録料に含まれています。上記以外の方も別途購読いただくことが可能です。詳しくはボーイスカウト日本連盟ホームページ <https://www.scout.or.jp> から、スカウティング誌のページをご覧ください。
©公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 2018 写真、イラスト、記事のコピー・複製・転載を希望される場合は、日本連盟事務局社会連携・広報部(代表 TEL:03-6913-6262)までご連絡ください。

SCOUTING

デジタル配信しています!



機関紙「スカウティング」のデジタル版(PDF)を、読者の皆さんを対象に配信しています。デジタル版は、文字もそのままコピーできますので、さまざまな資料に、より簡単に引用できるほか、タブレット端末などに、いつでも読むことができます。ぜひご利用ください。



ID: scouting-magazine

PASS: sonaeyotuneni

URL: <https://www.scout.or.jp/scoutingmagazine/issue/>

■ 本誌2018年9月号30頁の掲載写真について

前号(ジャンボリー特集号)において、「手旗の紅白を左右逆に持っている写真が載っている」とのご指摘をいただきました。編集にあたり、不注意がありましたこととお詫び申し上げます。

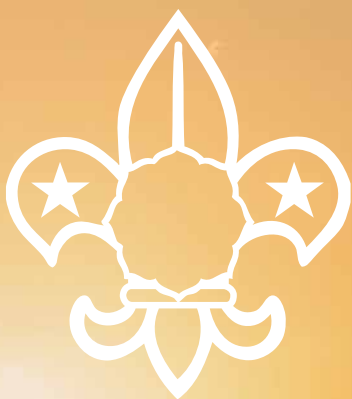
SCOUTING 2018/11 728

スカウトイング
昭和33年12月15日 第3種郵便物認可
平成30年11月1日発行(奇数月1日発行)

発行 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3
電話 03 (6913) 6262 (代)

定価 ¥200 (税込)
郵便振替 00130-1-66119
口座名義 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

4 931187 663251



SCOUT SHOP TOKYO

11月上旬オープン(予定)

7年間ご愛顧いただきました東京・文京区本郷のスカウトショップは、スカウト会館の移転に伴い、移転することとなりました。新しいスカウトショップは「SCOUT SHOP TOKYO」に名称を変更し、心機一転さまざまなことに挑戦していきます。グランドオープンの際には特別記念品やセールなども計画していますので、ぜひお越しください。

SCOUT SHOP TOKYO

167-0043 東京都杉並区上荻1-24-21 協立第51ビル 3F

<https://www.scout.or.jp/scoutshop/index.html>



正式なオープン日程、その他詳細は上記 URL もしくは QR コードを利用して、ホームページをご覧ください。

SCOUT SHOP, Scout Association of Japan.